

13 メアリの亡霊

哀れな物語^{バラッド}

1

それは真夜中のこと

若者ウィリアムが眠ろうとすると
メアリの亡霊がそっと入って来て
ベッドの側に立ったのである

2

ああ 愛するウィリアム ああ ウィリアム
もう わたしの永遠の眠りは無くなったの
ああ わたしの永遠の安らぎは
粉々にされてしまったの

5

3

今までの苦しみは何もかも
最後の瞬間に消えると思っていたわ
でも 細長いお棺に入っても
そこに長く居ることはなかったの

10

4

死体泥棒がやって来て
わたしをかつさらっていったの
ああいう連中は
死体と見たら放っておかないわ

15

5

丁寧に大切に埋葬されてると
あなたは思ったかかも知れないけれど
でも メアリボーンのお墓から
あなたのメアリの骨は盗まれたのよ

20

6

いつもあなたと組んでいたわたしの腕は
ヴァイス博士のもとに届けられ
わたしの両脚はガイ医学校を
せっせと歩きまわっているわ

7

わたしの手をとるのはあなたと決めていたの
でも 運命が許さないわ
わたしの手はベル博士のところで
アルコール瓶の中よ

8

わたしのちっちゃな足
あなたにいつも綺麗と褒められていた足
片方は確か ベッドフォード・ロウに
もう一方は シティに

9

首から上がどこにいったかわからないわ
カルプー博士だったらご存知よ
わたしの胴体は荷造りされて
ピックフォーズ運送会社の荷馬車で運ぶんだって

10

お願いだから社長さんのところに行って
そんな運搬やめさせて
中身をくり抜いておいて
外側だけなんて 真っ平だわ

11

雄鶏とりが鳴いたわ もう行かなくちゃ
愛するウィリアム お別れね
死んでも わたしはあなたのものよ
わたしの心臓はアストリー 准男爵じゅん様がお持ちだけど

12

お墓の前で泣かないで
わたしはそこにはいないわ
わたしは解剖されて
人体のひと欠片からだ かけらも残っちゃいないのだから

(山中光義訳)